

しが国際協力親善大使レポート

いちかわ もと
市川 素さん

隊次：2016年度1次隊

職種：コミュニティ開発

派遣国：インド

プロフィール

皆さん初めまして、平成28年度1次隊コミュニティ開発隊員としてインドで活動中の市川素（いちかわ もと）です。私は幼少期から学生時代までを滋賀の天津で過ごし、その後就職に伴い岡山県に移りました。岡山の民間企業で3年間働いた後、現職参加制度を利用して会社を退職し、青年海外協力隊に参加しました。

国、地域、文化について

私は現在南インドのアンドラ・プラデシュ州ヒンドゥプールという町で養蚕農家のグループ形成を支援する活動を行っています。アンドラ・プラデシュ州は養蚕を含めた農業が盛んな州であり、気候は年中夏の気候で3月から4月の酷暑期には気温が40度を超えることもあります。インドはヒンドゥー教徒が多いイメージがあるかと思いますが、ヒンドゥプールはイスラム教徒の方も多く、またキリスト教徒の方も一定数います。町にはヒンドゥー寺院やモスク、教会があり文化多様性を肌で感じる町です。町の規模は中規模程度といったところで、スーパーマーケットや野菜市場、家電量販店やレストランもあります。町のレストランでは南インドの典型的な食事であるミールス（ライスと2、3種類のカレーがついた定食のようなもの）を食べることができ、本場のカレーの味を楽しんでいます。

活動について

さて、私の活動は養蚕農家のグループ形成の支援です。養蚕とは蚕を育てて繭にし、その繭から絹（シルク）の原料となる生糸を作る産業のことです。日本は昔、世界一の生糸生産国でしたが現在は衰退してしまい、一部の地域に残るのみとなってしまいました（滋賀でも湖北に現在でも養蚕を行っている地域があります）インドは現在世界二位のシルク生産量を誇り、特にアンドラ・プラデシュ州を含めた南部地域では養蚕は重要な産業となっています。そのような環境の中で私は養蚕農家のグループ形成に携わっています。グループを作る目的は、一つは政府や企業が開発した新しい技術を農家間に効率的に普及させていくため、もう一つは農家の人々が政府や外部機関に頼ることなく自分たちで問題を解決し、生活を向上させていくための力をつけてもらうためです。具体的な活動としては、まずは地域の養蚕農家を訪問し、どのような種類の蚕をどれくらいの規模で育てているか、どれくらいの収入があるのかなどの現状調

査を行うとともに、現在どのような問題を抱えているか、我々に対しどのようなことをして欲しいかなどの調査を行っています。そしてグループを作ってみなで考えればこんなことができるのではないか？グループで活動すれば問題解決できるのではないか？というような提案をする形でグループの形成を呼びかけています。またすでにグループができている地域ではグループ内で共同の銀行口座を開きみなで貯金したり、ミーティングを開いて困り事を話し合ったり、先進的な農家や研修機関に行って勉強したりといった活動を行っています。

外国人がほとんどいないこの地域で、活動を始めた当初は言葉の壁や考え方の違いもあり「この外国人は一体何者だ？」というような印象を持つ人も多かったように思います。しかし、何度も足を運び、話をすることで徐々に心を開いてくれて、笑顔で迎えてくれることが多くなってきました。また最初は農家の人たちは配属先の同僚を通して、私のことを話していましたが、今では直接私に話しかけてくれる人が増えてきました。少しずつ現地のコミュニティに迎えられているように感じ、とても嬉しく思います。

私自身には養蚕の経験はなく、技術的なことを伝えることはできません。なので養蚕経験を持たない日本人が何をしに来たのかと思われることも多く、また自分自身も何ができるのだろうかかと悩むことがあります。しかし素人だからこそ見えること、よそ者だからこそ言えること、日本人だからこそ感じることもあると信じて日々活動を行っています。また日本とインドの時間感覚や考え方の違いに戸惑うこともあります。こうした方がいいのに何でしないのだろう？とってしまうこともあります。だけど、彼らには彼らの時間や生活、方法があって、逆に考えれば私の方が何故こんなことを言うのだろうと思われることも多いはずです。このように初めて海外で生活する中で新しいことがたくさん見えてきたような気がします。今後も地域の人々ともっと心を通わせ、国や言語や文化が違っても同じゴールに向かって同じ気持ちで活動ができればと考えています。

農家向けプログラムの休憩中に現地語を教えてもらっている様子



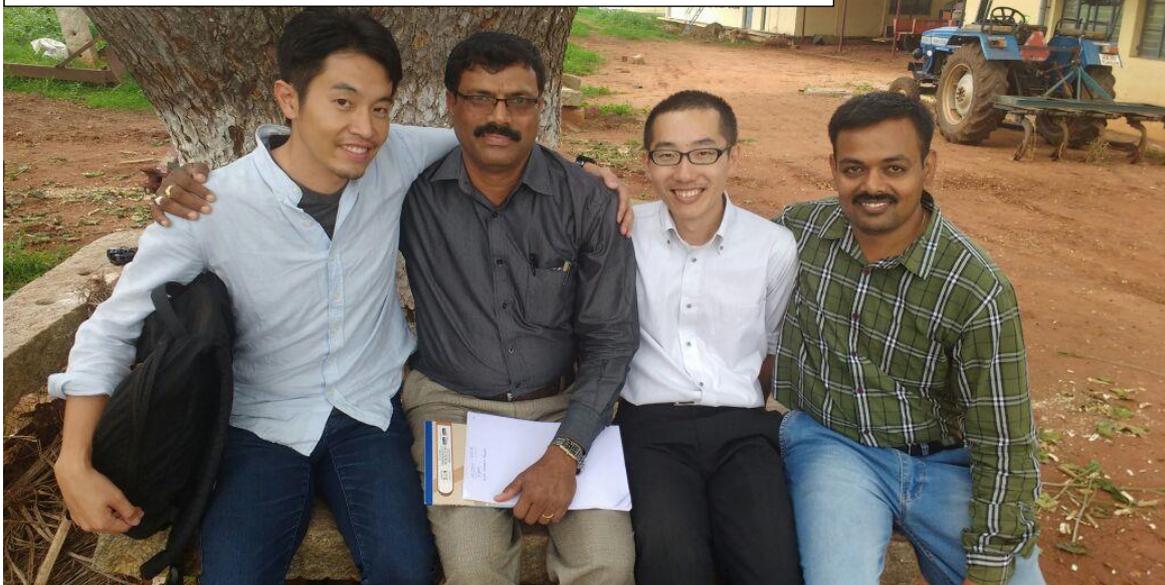
桑畑にてサイエンティストから桑の管理方法について説明を受けている様子



農家さんを訪問した際の一コマ



マイソールの養蚕研修所にてともに研修を受けた研修員たちと



サイエンティストから回転まぶしの使い方の指導を受ける様子

